

常盤の翠

志・寛・録

発行

平成30年10月31日

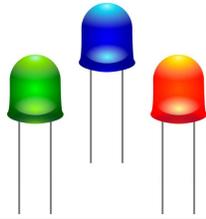
鹿児島市立伊敷中学校

大切なのは「頭が強い」ことです

校長 寺園 伸二

世界を変えた一人の日本人が亡くなりまし
た。西澤潤一さん。今の世界になくはなら
ない画期的な発明を次々に世に送り出し、世
界から「独創の雄」と呼ばれた人物です。た
とえば、信号機に使われている昼でも明るく
輝く発光ダイオード（赤色、緑色）は彼の発明
ですし、CDやDVDの読み取りや書き込み
に使われる半導体レーザーも、光通信に使われ
ている光ファイバーも彼の発明です。西澤潤
一さんがいなければ、今の世界はなかったか
もしれません。

あるインタビューに答え
たときの西澤潤一さんの言
葉が忘れられません。「ど
うすればそんなに頭がよく
なるのですか。」と問われたとき、彼はこう話
したのです。「私は頭がいい方ではありません。
今の世の中では『頭がいい』という言葉がよく
使われますが、私は『頭が強い』という見
方があると思います。『頭がいい』とは、頭の
回転が速いことを言うことが多いのですが、
私の考える『頭が強い』とは、「とことん考え
抜く」ことを言います。ともすれば頭の回転
の速さだけを求めがちな現代社会ですが、頭
の回転は速いが何をやって長続きがしない
人間が、果たしてこれからの日本の社会を支
える人材になりうるのでしょうか、賢明な意
志決定ができる人間になりうるのでしょうか、
疑問です。何事にもじっくり取り組み、最後
まで真剣に考えぬくことの大切さが忘れられ
ているのではないかと思うのです。」



させられました。『確かに、頭の回転を速
くするのは難しいかもしれない。しかし、
とことん考え抜くことなら自分にもでき
るかもしれない。大切なのは頭のいい人
ではなく、頭の強い人になることなんだ。』
と思えたとき、諦めずに考えることの大切
さを改めて意識するようになりました。
自分で考えること、とことん考えること、
考えることを諦めないこと、そんな生き
方が私は格好いいと思っています。ちな
みに、最後まで開発が困難だった発光ダイ
オード（青色）の生みの親である中村
修二さんも、「井戸は水が出るまで掘れ。」
という言葉を残しています。やはり似た
考え方ですね。

今年度のノーベル医学生理学賞には、
京都大学高等研究院特別教授の本庶佑（ほ
んじょ・たすく）さんが選ばれました。
がん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキ
をかけるタンパク質を発見し、画期的な
がん免疫療法に結びついたことが評価さ
れての受賞です。受賞の記者会見の席で
奥様は、「何でも諦めない。とことん極め
る。中途半端には終わらせない。そうい
う態度は見ておりましたので、この結果
につながったのかなと思っております。」
と穏やかな口調で答えていらつしやいま
した。やはり似ていますよね。

伊敷中の皆さん。何でもとことん考え
てみましょう。そして、あなたが諦めず
に考え抜くことで、世界が変わるかもし
れません。

Power of Ishiki

～気付き×実践＝伊敷の善進～

第73代伊敷中学校生徒会の役員が決まりました。引
継ぎでは、全員が堂々と自己紹介をしており、みんな
が新たな生徒会に期待を抱
いたのではないかと、思います。
役員の皆さんにも、引き受
ける前にはきつと葛藤があつ
たことでしょう。自分に務ま
るか、みんながついてきて
くれるだろうか、自分の時間
がなくなるのではないかと、
それでも伊敷中のためにが
んばろう、と引き受けてくれ
た心意気にまず感謝をした
ころです。

さて、校長先生が「生徒会
とは何か」「学校とは何か」と
いう問い掛けをしました。皆
さんはそのとき、どんなこと
を考えたのでしょうか。三大
伝統を中心に生徒会ががんば
っている学校、校舎がきれ
いな学校、研究公開を行っている
学校等、伊敷中を表す言葉はた
くさんあるのでしょうか、結
局のところ、伊敷中とは皆さん
一人一人であり、その姿で伊敷中
は語られると考えてください。
先日、宿泊学習・修学旅行に
来ていたバスガイドさんが門札
をしてバスに乗り込む皆さんの
姿にびっくりしていました。「何
も言われなくても、生徒の皆さ
んは誰もが門札をできるのだす
ね。」褒められてうれしく思
いました。皆さんはどうでしょ
うか。
今年の生徒会のスローガンは
「伊敷中の生徒一人一人がもつ
ている力を結集しよう」という
意味合いだそう。皆さん一人
一人に自分の目線から気付く
ことは何か、自らが実践でき
てほしいものです。伊敷中が更
に「善進」していくよう生徒会
役員と共に活動を充実させてい
きましょう。



11月の主な行事予定

- 2日 第72回文化祭 食に感謝する日
- 6日 第2回共通実カテスト(3年)
- 7日 地域生徒会
- 9日 専門高校フェスタ
- 10日 第2回設営コンクール
- PTA教育講演会
- 第2回資源回収
- 上履クリーンデー
- 14日 3年授業参観・PTA
- 15日 グリーンタイム
- 16日 がん教育(2年)
- 19日 期末テスト(～21日)
- 23日 PTAバザー
- 21日 三者面談(～30日)
- 26日 教育相談(～30日)
- 29日 読み聞かせ(3年)

私立高校説明会を通して

今、身に付けるべき力とは

一・二年生が宿泊学習や修学旅行に行っている17
日・18日には私立高校説明会が行われました。三年
生にとつていよいよ来月は三者面談があります。何かを
生をおおむね決めていくことになり。何かを選択
するということ、その他を切り捨てるということ
です。厳しさを難しさも感じるでしょうが、十分に
自分に向き合い、自分の答えを出していつてほしい
と思います。
さて、十二校の先生方が説明に来校されましたが、
多くの先生方が語っていたのが「大学入試が変わる」
という話だったようです。大事なことを覚えている
ことより、その知識を使って何をしてきたか、何が
できるか、ということが問われてくる時代になつて
きています。
先日、学校では「汎用
的な資質・能力ルーブリ
ック」を配付しました。
汎用的というのには「いろ
いろな場面」で用いること
ができる」という意味に
なります。授業はもちろ
ん、生徒会や学級活動の
ちよつとした場面でも、
少し高いレベルを目指し
てみましょう。その積み
重ねがきつと皆さんの力
になるはず。それは
きつと進路を決定する
しきにも生きてくること
でしょう。

